



荒瀬社長(中央)にインカレに向けての意気込みを語った八学大のメンバー14日、デーリー東北新聞社

インカレ 悲願の1勝を

八学大女子 サッカー部 本社訪れ決意語る

24日開幕の全日本大学女子サッカー選手権(インカレ、兵庫県三木市ほか)に出場する八戸学院大女子サッカー部が14日、八戸市のデーリー東北新聞社を訪れた。畑中孝太監督と選手7人が「悲願の1勝」への意気込みを語った。

同部は、東北地域大学女子サッカーリーグ(8月27日～11月5日)で2位となり、2年連続2度目のインカレ出場を決めた。初出場だった前回は1回戦で武蔵丘短期大(埼玉)に0-8で敗れている。

現在、部員は1～3年の15人。大一番に向け「高い位置でボールを奪い、速い展開で攻め込むサッカー」を目指し、男子中学生らを相手に練習試合を重ねている。

この日は、畑中監督が「昨年続き、東北2位でインカレ出場を決めた。青森県初の初戦突破を目指したい」と報告。續橋菜摘主将(3年)が「昨年は大敗

している。何としても勝つことが目標」と決意を語った。荒瀬社長は「あまり硬くならずに出し切って」と激励した。チームは22日に八戸市を

出発。24日の1回戦で愛知東邦大(東海2位)と対戦する。(田沢奈々)